

現在の地区の取り組み

- 在宅高齢者等給食サービス事業
- 友愛訪問事業
- 地区別福祉懇談会
- 在宅福祉サービス推進ボランティア育成事業



世代間交流 昔の遊び



災害時要援護者の見守り体制について話し合い



世代間交流 凧づくり



地区別福祉懇談会

福祉施設等の地域資源

- ①川越キングスガーデン(特別養護老人ホーム・デイサービス・ケアハウス主の園)
- ②みなみかぜ(特別養護老人ホーム・デイサービス・ケアハウス・グループホーム・地域包括支援センター)
- ③さくらデイサービスセンター
- ④誠和クリニックケアセンター
- ⑤ジャパンケア川越震ヶ関
- ⑥デイサービス井戸端
- ⑦川鶴ナーシングホームデイサービスセンター
- ⑧ひらつかデイサービス
- ⑨しゃくなげ苑
- ⑩グループホームファインケア川越
- ⑪プライムケア川越
- ⑫川越ケアセンター
- ⑬いぶき

- ⑬初雁の家
- ⑮ワークセンターけやき
- ⑯やまびこ製作所

- ⑰第2潮寮
- ⑱やまぶきホーム
- ⑲オリオン

- ⑳名細保育園
- ㉑名細第二保育園
- ㉒バンビ保育園
- ㉓マーガレット保育園
- ㉔川越ベビーホーム
- ㉕上戸保育園
- ㉖こまどり保育室



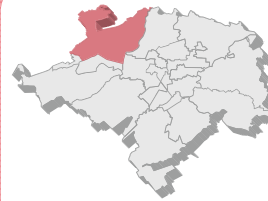
- ㉗生活支援ハウスメイト

- ㉘西部診療所ホームヘルプサービス
- ㉙川越比企コア
- ㉚くらしや 朗幸

- 自治会数……………25
- 自治会集会所数……24
- 自主防災組織数……18
- 民生委員数…………43

- 保健推進員数…………8
- ボランティア団体数…14
- NPO団体……………8
- 老人クラブ……………11

- 病院……………1
- 一般診療所……………20
- 歯科診療所……………15



名細地区福祉プラン

地区の特徴

名細地区は市の北西部に位置し、「名細」の名前の由来については、「美しい(=細)土地(=名)」を意味する枕詩から来ていると言われています。

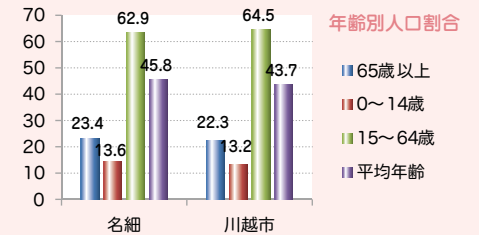
地域内には、国指定の文化財「河越館跡(常楽寺)」や市指定の無形文化財「鯨井の万作」などがあります。

平成22年には、大字鯨井の小畔川沿いに「資源化センター」が完成、また隣接地には平成24年になぐわし公園健康風呂施設「ピコア」がオープンするなど、地域のさらなる発展が期待されています。

地域住民の状況

	名細地区	川越市
●人口	29,654人 (前年比2.76%増)	346,739人
●世帯数	14,889世帯	145,904世帯
●高齢化率	23.4%	22.3%

※平成25年1月1日現在



地区の活動目標

目標1 災害時一人も見逃さない地域支援体制をつくろう

目標2 高齢者に関する地域の課題に取り組もう

目標3 地域のつながりを深めよう

エリアミーティングであげられた課題

《一人暮らし高齢者が増えている》

- ◇一人で住んでいる高齢者の把握が難しい。
- ◇高齢者の一人暮らしの人で病弱者が多い。
- ◇あまり家から出てこない、閉じこもりがち高齢者が近所に多くなってきている。

《災害時要援護者支援体制が整っていない》

- ◇自主防災組織が機能していない。
- ◇防犯パトロール以外の訓練等の実施ができていない。
- ◇毎年役員交替があり、体制づくりが進まない。
- ◇支援の必要な高齢者と近所の方々の付き合いが希薄である。

目標 1

災害時一人も見逃さない地域支援体制をつくろう

◎ 自主防災組織の取り組みを充実させよう

具体的な取り組み

▶ 自治会ごとに自主防災の取り組みの検討・見直し・会議等を定期的に行い、自主防災活動を充実させていきます。

- 1 自治会等地域の各種団体は、災害時の援助や日常の見守り活動等のために、一人暮らし高齢者本人の同意に基づいた情報を共有し、連携を図ります。
- 2 役員交替時に活動が途切れないようにするために、文書及び資料（マップ等）で引継ぎを行います。
- 3 自治会や自主防災組織から住民へ働きかけて、防災訓練への参加等、地域の協力体制づくりを行います。
- 4 災害時に避難支援が必要な高齢者以外の住民についても、見逃さないように声かけなどの取り組みを行います。
- 5 支援者カードを自治会と民生委員が共有して活動していきます。

目標 2

高齢者に関する地域の課題に取り組みよう

◎ 高齢者の見守り活動に取り組みよう

具体的な取り組み

▶ 地域の中であいさつ運動、声かけ運動に取り組みます。

- 1 地域住民が『可愛声運動』（かわごえうんどう）による声かけ、あいさつで単身高齢者の安否を知り、異常があれば地域包括支援センター等へ連絡するしくみづくりを行います。
- 2 回覧板を手渡しで渡すようにし、何気ない見守り、声かけを実施していきます。

▶ 自主防災会と協力して見守り活動を強化していくために、情報の共有化を図っていきます。

- 1 民生委員、自治会は、情報カード等で、一人暮らし高齢者本人の状態や身内の連絡先等の情報を把握していきます。

▶ 日常の見守りのために、ボランティア募集を行い、地域の協力者を増やします。

- 1 気になる人を隣近所でのゆるやかに見守ってもらえるよう、地域住民への意識啓発を行います。
- 2 体制づくり等、実働に係る協力者には、役員の経験のある方などへ声かけをしていきます。
- 3 退職後の元気な方に、地元ボランティアとして参加を呼びかけていきます。
- 4 見守り隊の組織化を検討していきます。



◎ 高齢者の参加の場を地域につくろう

具体的な取り組み

▶ 自治会や民生委員児童委員は、高齢化が進んでいる現状を踏まえた事業展開を検討していきます。

- 1 高齢者の食事会・会食会、お花見会、映画観賞会等を継続して取り組みます。
- 2 自治会、民生委員は、自治会館で月1回お茶飲み会や健康体操をする等、高齢者が日中集まれる憩いの場を設けて、お互いに話せる機会を設定します。（フレンズ*つつみ等）
- 3 ふれあい祭りに一人暮らし高齢者を招待します。
- 4 福祉施設と連携し、高齢者の体力維持と交流を目的とした介護予防体操を推進していきます。
- 5 今後急増する高齢者、特に男性の方に自治会等の地域活動に参加してもらう方法を検討していきます。
- 6 防災訓練や出前講座等、身近な行事を実施し、高齢者の仲間づくりを行います。

▶ 福寿会や交友クラブ等、現在の取り組みを活かして高齢者の参加の場づくりを進めていきます。

- 1 趣味を取り入れたり、遊戯会を設けたりといった工夫をし、仲間づくりを推進します。
- 2 高齢者が外に出るきっかけづくりとして、老人会の取り組みをPRしていきます。

▶ 高齢者が集える場所づくりとして、ベンチの設置等を検討します。

目標 3

地域のつながりを深めよう

◎ 地域交流（世代間交流）の場をつくろう

具体的な取り組み

▶ 高齢者と子どもが一緒に活動する場があると地域が元気になるため、地区社協、自治会、育成等はネットワークづくりを進め、現在の催事の強化を図ります。

- 1 ラジオ体操に老人会、子ども会が参加し、高齢者と子どもの交流の場を設けていきます。
- 2 老人会の行事に子どもも一緒に参加していきます。
- 3 サツマイモやジャガイモの栽培（植え付けと収穫）、グランドゴルフ大会、学校への協力事業等を世代間交流事業として継続して実施し、地域住民への参加を呼びかけていきます。
- 4 地区のお祭りの中で、継続して高齢者と子どもが交流を図っていきます。

▶ 学校と連携し、子どもとの交流を図っていきます。

- 1 学校との懇談会を頻繁に行っていきます。
- 2 元気な高齢者が盆踊りや笛、太鼓等の伝統文化の保存会として、学校に指導に出向いていく取り組みを継続していきます。

▶ 地域住民による自主活動として、ふれあいサロンの設置を推奨し、地域の交流を図る機会を増やします。

- 1 自治会館を開放し、クラブ活動やおしゃべりサロンとして毎週定期的に交流を図ります。
- 2 自主防災活動の内外の先進地区の講演会等を定期的に開催し、学習の機会をつくります。

